

活動報告書

報告者氏名：水野吉丈

所属：東京都立江戸川特別支援学校

記録日：2013年 2月22日

【対象児（群）の情報】

- ・学年 中学部2年
- ・障害名 脳性まひ
- ・障害と困難の内容

脳性まひの障害で、一人で座位を保持することも困難である。全身に不随意運動があり、手の操作性も障害由来の制限がある。発声はあるが、言葉としてのコミュニケーションは困難である。内言語は豊かで、家族旅行の写真や行事の写真を見ながら言葉がけをすると、的確なリアクションを表情やしぐさで表現することができる。保護者の願いとしては本人のコミュニケーション能力を向上し工夫することで、してほしいことや気持ちを表現することができるようになると良いと考えている。そこで、魔法のじゅうたんプロジェクトに応募してiPadを利用したコミュニケーションの可能性を探ることを考えた。

【活動目的】

- ・当初のねらい

iPadを利用して、本人が文字を入力し気持ちを表現すること。

- ・実施期間

平成24年4月より平成24年2月まで

- ・実施者 保護者（母親） 高橋尚子（担任）

- ・実施者と対象児の関係

家庭では保護者が、学校では担任が個別指導の時間などを利用して取り組んだ。

入力した内容は、学校では登校時の学級の時間や課題別学習のグループの時間に発表した。

他に魔法のじゅうたん担当が適切にアドバイスをを行った。

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

保護者や教員の言葉がけに、表情や仕草で応えること主であった。コミュニケーションの相手は、保護者や教員が多く、自分から他の生徒に対してアクティブに働きかけることは少なかった。

・活動の具体的内容

はじめはアプリ、トーキングエイド for iPad(魔法のふではこの時に評価版としてインストールしていたもの)への自分での入力に取り組んだ。指先のコントロールが難しいので、穴をあけた手袋をして、指の一部だけ反応するように工夫を行った。しかし、自分の意図する場所に指を持っていくことが難しかった。2学期になり、本校で購入したトーキングエイド for iPad 及びキーガードを装着することで、若干操作に改善が見られたが、自分で任意の場所に入力できないことから、集中が続かないこともあった。本人が何について書くかを、保護者や教員が提示して、本人が選択する形で入力を代行する形ですすめることも併用した。

入力内容は、家や学校のでできごと。給食の内容であった。

・対象児（群）の事後の変化

最初は自分が家族と行った場所、食べたものと、自分の世界の中のものが多かった。本人が家庭で「きのうはかぜがつかった」と書いた内容を、朝の学級活動の時間に発表したところ、同じ学級で、違う発達課題別学習グループに所属する生徒から「そうだね、すごい風だったね。」という反応が返ってきたことが転機になり、自分の外側に対してのコミュニケーションに興味を持つようになった。その後、「たべものは、なにがすきですか？」などの発言を家庭で書いてくることもあり、他の生徒とのコミュニケーションが広がるようになった。

保護者は、保護者も B さんも iPad に慣れてきたことや、外に向かうコミュニケーション（同世代の仲間に向かう気持ち）が広がってきたことから来年への継続指導を望み、本校として継続研究の希望を出すことにした。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

内言語が豊かなことから、B さんの言葉を引き出すことを考えていたが、外に気持ちが広がるきっかけによって、言葉ではなくコミュニケーションとして広がっていくことが見られた。本人が発した言葉をどの場面（機会、対象も含めて検討が必要）で提示するかを選択することが、コミュニケーションの力を育てる上で大切であるということが感じられた。

・エビデンス（具体的数値など）

高橋教諭の記録を確認すると、「風が強い日」以前と以後で、話している内容がかわっているのが確認できた。それまでは、自分のエピソードを伝えるだけであったのだが、他の人のリアクションを期待した言葉が見られるようになった。

・その他エピソード（画像などを含めて）



脳性まひによる不随意的な動きのために入力しようとする本人の意図しない緊張が発生することが多かった。そこで、iPad までの距離や設置する角度を、B さんの視野などを考えて工夫した。また手袋をはめることにより、同時に複数のタッチをしないような工夫も行った。